【資料 2】

マックスバリュ生駒南店閉店に伴う今後の対応について

1. はじめに

平成 31 年 4 月 20 日をもってマックスバリュ生駒南店が閉店することとなった。そのため、この場所に位置するバス停（マックスバリュ生駒南店）を撤去せざるを得ない状況となった。（現時点では、当該バス停までの区間を一旦休止するということで手続きを進めている。）

マックスバリュは、萩の台地区及び南地区にとっては、日常生活において買い物をするための主要な行き先の 1 つであり、当該施設がなくなることは、地域住民の日常生活の利用に大きな影響を与えると考えられる（H30.4～H31.2 の実績によると、萩の台線では全体（7,613 人）の約 25%(1,881 人)を占めており、西畑・有里線では全体（6,739 人）の約 21%（1,425 人）を占めている。）

現時点では、マックスバリュの跡地における土地利用は定まっていないが、地域住民の生活の質が大きく低下することを防ぐため、早急な対応が必要であると考えられる。

そこで、本資料では、今後検討すべき事項について整理を行った。

なお、具体的な検討については、詳細がわかり次第、検討を進めることとする。（必要に応じて、協議会とは別で分科会を開催することも考えられる。）

2.　検討すべき事項について

2.1　ヒアリング,アンケート調査の実施

・マックスバリュ生駒南店が閉店することに伴い、当該バス停までの区間を休止することとしている。

・マックスバリュの跡地における土地利用（マックスバリュと同様の施設、もしくは異なる施設（洋服店、雑貨店等））に応じて、検討時期・内容も異なってくるが、まずは、地域住民の買い物機会を保障するためのコミュニティバスによる適切な対応策を講じるため、マックスバリュに買い物に行っていた人の行動の変化を把握し、地域住民に対してヒアリングやアンケート調査を実施する必要があると考えられる。

・その調査結果に応じて、コミュニティバスの走行経路の見直しやバス停の新設・移動等の検討も考えられる。

※両路線周辺では、業務用スーパーや中村屋東生駒店、オークワ生駒東山店（萩の台地区の場合）が立地している。）

2.2　路線計画の見直しについて

「はじめに」でも示している通り、マックスバリュ生駒南店におけるコミュニティバスの利用者は、H30.4～H31.2 の実績によると、萩の台線全体（7,613 人）のうち約 25%（1,881 人）を、西畑・有里線全体（6,739 人）のうち約 21%（1,425 人）を占めている。そのため、地域住民の活動機会が確保されず、利用状況にも大きく影響することが考えられるため、当該地区の路線計画の見直しが必要になると考えられる。

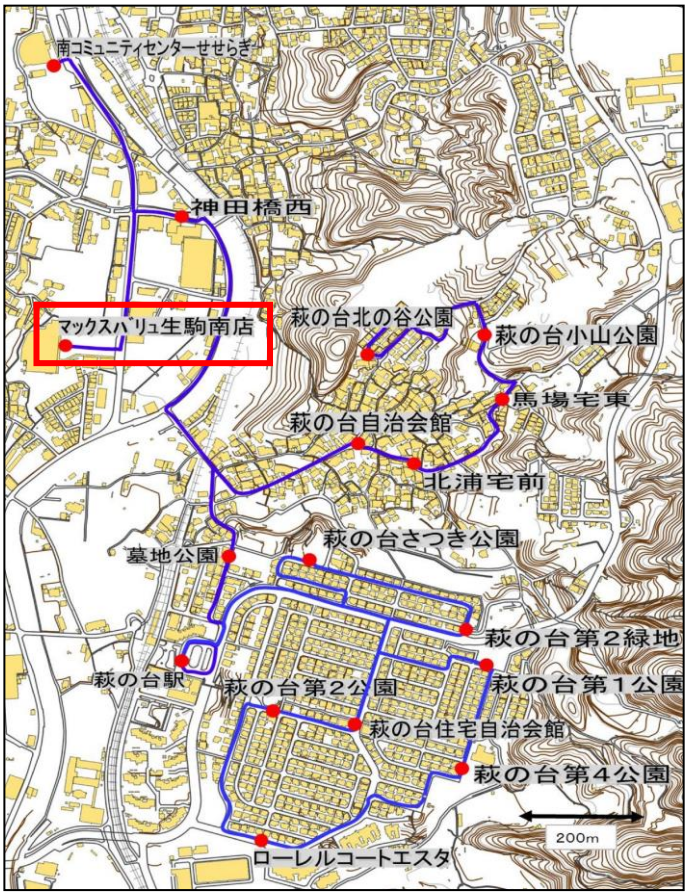

図2-2-1 萩の台線　運行経路

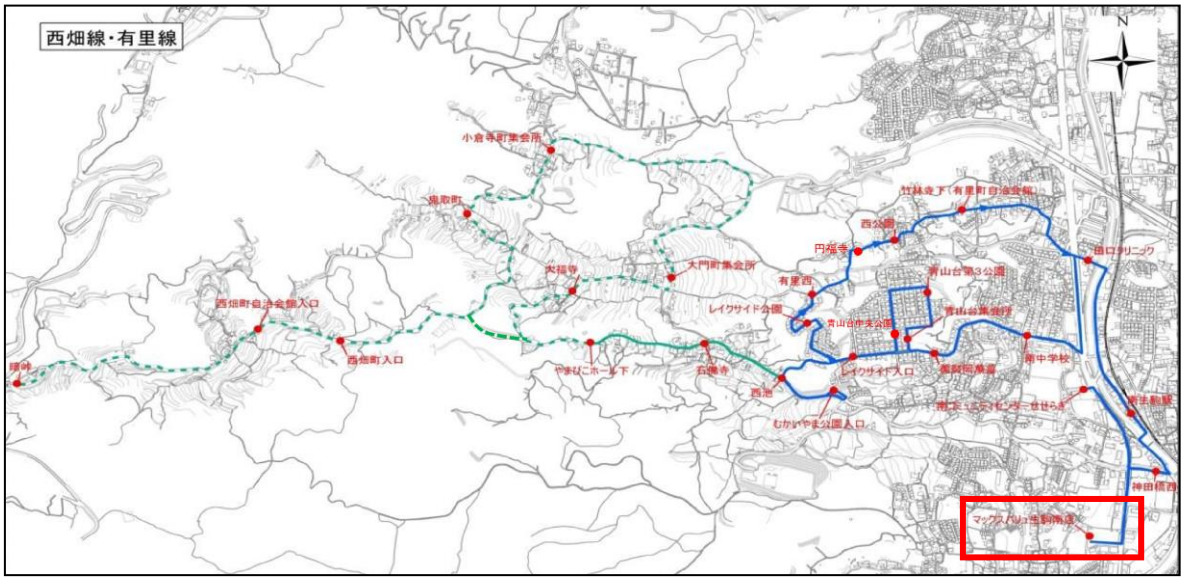

図2-2-2 西畑・有里線　運行経路